



優しい風の吹く街

森臨太郎市長による施政方針では、深刻な少子高齢化と人口減少の進行、物価高や円安、人件費の上昇、さらには自然災害の激甚化など多くの問題が指摘されており、それらについてよりよい解決策を探っていくとされています。

これからも市長と市民の対話ひろば等でどんどん意見を届けてください。私がももてきた校内サポートルーム体制の拡充も別室登校指導員とアシストスタッフの配置時間が増えてきました。今後も議員として、市民の生活実態と課題認識を共有し、市政運営についての提言を続けていきます。



活動報告

1月

- 5日 仕事始め式
- 6日 連合兵庫旗開き
- 7日 宝塚市新年互礼会
- 10日 スポーツ協会互礼会
- 17日 阪神淡路大震災追悼式
- 18日 母と女性教職員の会（講師）
- 21日 部落解放共闘学習会
- 23日 市議会・郷土史研究会
- 25日 青空対話集会

2月

- 8日 小林の杜コンサート
- 15日 立憲アカデミー（講師）
- 16日 宝塚市ハラスメント研修会
- 23日 立憲民主党兵庫6区総支部・総括会
- 28日 朝鮮学校に無償化適用を求める講演会

3月

- 1日 ミリオンベル@宝塚定例会
- 15日 高校生平和大使・兵庫平和シンポジウム



2/23 立憲民主党兵庫6区総支部・総括会



1 市長と市民の対話ひろば

<質問>

市長が多様な主体と対話を重ねる手段として、対話広場やイベントなどで市民の声を聞くことをあげられているが、対話広場は決定事項の説明会となりがちではないか。双方向のコミュニケーションとしての意見交換はどのように政策に反映されるのか。

<市長答弁>

本年度は5つのテーマで20回開催し、延べ841人、1回あたり約42人に参加いただいた。対面形式で実施したことにより、皆様の声を直接把握できた。アンケートでは「市政への関心が深まった」「現状を理解できた」「市政に参加できた」と93%の方が有意義だったと回答された。来年度は7つのテーマで28回の開催を予定しており、新たな参加者を募る方法として、住民台帳から無作為抽出した市民への案内も考えている。

北野さと子の意見

今後も市民との対話を深め、意見をしっかり聞いて政策に反映させてほしい。

2 医療体制強化

<質問>

市立病院の医療体制強化と職場風土の醸成は。

<病院事業管理者答弁>

- ・全病棟を稼働させ患者の受け入れを拡充
- ・産婦人科の入院診療再開
- ・手術支援ロボット（ダ・ビンチ5）使用
- ・救急医療により一層の注力
- ・「患者さんに寄り添い、地域から信頼される病院」という当院の理念を職員に周知



3 人権尊重のまち

<質問>

差別・いじめ・ハラスメントを一体的に捉える北欧のオンブズパーソン制度のようなくみは。

<市長答弁>

北欧では差別是正の監督が役割。国内では子どもの人権救済を担う。これら「人権オンブズパーソン」の事例研究をすすめる。

4 障がい福祉

<質問>

支援体制の整備と拡充の具体策は。

<市長答弁>

- ・医療的ケアを必要とされる人が緊急対応時などに利用できる短期間の入所事業を予定
 - ・日常生活用具給付事業のうち「ストマの給付額」を増額して本人の経済的負担を軽減
 - ・資格取得費用が高額であるため受験を躊躇している現状から法定研修費用の助成を実施
- これにより質の高い人材確保やスキルアップ、さらには離職防止による定着支援にもつながると考えている。

5 市立温泉利用施設の休館

<質問>

ナチュラルスパ宝塚の休館と新たな活用方策について、温泉施設の継承を望む市民の声も届いている。前向きなとりくみが求められているがどうか。

<市長答弁>

本施設については建築後25年が経過し、老朽化や故障による設備の修繕が必要となったことから6月末をもって休館することとする。今後は既存建物を生かしつつ事業者のノウハウを存分に生かすため、土地・建物の貸し付けも検討している。観光客や市民の健康増進、交流を図り、宝塚温泉の文化を継承していくために最善の策を講じていきたい。

6 不登校対策

<質問>

現在のアシストスタッフは週2・3回程度の勤務となっている。不登校児童生徒は心や体の状態によって、登校できる日もあればできない日もある。学校としてはそのような子どもたちのために、毎日アシストルームを開けてあげたいという思いと、開けるとなると誰が対応するのかというせめぎ合いがある。スタッフのいない時間を教職員で対応している現状では、どこかに無理が生じてしまっている。やはり専任職員で対応していくことが子どもたちの安心と安定につながる。スタッフの増員計画が必要ではないか。

<教育長答弁>

不登校傾向の児童生徒には、校内サポートルームを設け、学校内の居場所づくりにとりこんでおり、一定の効果があると認識している。今後も子どもたちの成長のために、最も効果的な支援方法を検討しながら、校内サポートルームスタッフの配置時間拡充に努めていく。

<質問>

本市では以前から子ども支援サポーターを別室登校指導員として配置している実績もあり、小学校でもサポートスタッフの配置がある。さらなる拡充は。

<学校教育部長答弁>

本市では令和6年度からアシストスタッフを小学校20校に配置する以前の、令和5年度から小学校2校を研究校に位置づけ、どのような支援が効果的であるかを検討してきた。その結果、スタッフが学級担任をはじめ、教職員と日常的に情報共有し、役割分担の下で連携して支援できること、また、子どもたちが学校で給食を食べることができるようになることで教室復帰の増加や欠席の長期化抑制といった変化につながり、学校で過ごす子どもの安心感を高めるうえで大きな影響をもつことがわかった。県の補助金拡充が確定次第、補正予算の要求を含め、スタッフの配置時間拡充を検討していく。その際、配置時間の

増加だけでなく、子どもたちが安心して学校で過ごしやすい時間帯にも支援が届くように運用を工夫していきたい。

7 手塚治虫生誕100年

<質問>

作品の根底に流れている「生命の尊さ」「地球環境保護」「平和の大切さ」は現代社会への警鐘ともとれる。また、宝塚昆虫館で自分の名前に似たオサムシという昆虫を発見したことや宝塚歌劇の影響を受けて描いた「リボンの騎士」等、手塚治虫さんの魅力と宝塚市との関係性を発信するとりくみは。

<市長答弁>

手塚氏が宝塚で約20年過ごし、その経験が作品の原点ともなっていることから手塚治虫記念館が宝塚に存在している。2028年度の企画展は文化芸術センターなどとの連携について手塚プロダクションと検討をすすめていく。周辺をマンガ・アニメの発信交流拠点とすることで、観光・文化・産業を結びつけるプラットフォームとする。

<質問>

手塚治虫記念館開館記念として「ブラック・ジャック危険な賭け」ショーや「火の鳥」の宝塚歌劇公演がおこなわれた。生誕100年で再演できないか。

<産業文化部長答弁>

積極的に歌劇団のほうにも働きかけていこうという声もあり、手塚プロにも伝え、すすめていきたい。



8

放課後の児童の居場所についての包括的なとり組み

<質問>

本市が堅持してきた直営での地域児童育成会拡充を含む検討か。

<市長答弁>

地域児童育成会の定員拡充や新たな居場所の検討、公共施設の活用、営利企業が民間放課後児童クラブの運営に参入できる仕組みの導入などを取りまとめ、すべての子どもが放課後に安心して過ごせる環境づくりをすすめる。



<質問>

未配置があった支援員の確保はできているのか。

<市長答弁>

支援員インタビュー記事やSNSを活用した採用情報の発信に努め、6人の応募があり一定の効果があった。

<質問>

営利企業の参入は習い事とどう違うのか。

<子ども未来部長答弁>

あくまでも放課後健全育成事業をベースに、子どもの適切な遊びや生活の場を提供するという趣旨でとりにくんでいただく。



麻田議員・伊佐候補・北野・里美議員・桜井候補

衆議院議員選挙は、公明党議員と力を合わせて中道候補を応援しましたが厳しい結果となりました。党の合流について説明不足であったことはお詫びいたします。来年の統一地方選挙は立憲・公明・中道の協力体制で臨みます。そして、私はこれからも平和と人権を守り、弱い立場の人に寄り添っていきます。